認可

［平成２１年度設置］

計画の区分：学部設置

注１

四国大学　看護学部

注２

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人　四国大学
平成２２年５月１日現在

作成担当者

担当部局（課）名　　総務部総合企画課

職名・氏名　　課長　吉田（ヨシダ）　一彦（カズヒコ）

電話番号　０８８－６６５－９９０５

（夜間）　０９０－４９７９－１９８２

ＦＡＸ　０８８－６６５－８０３７

ｅ－mail　sougoukikaku@shikoku-u.ac.jp

（注）１　「計画の区分」は認可時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

２　大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院　・・・」と記入してください。

認可時から対象学部等の名称変更があった場合には，表題には認可時の旧名称を記載いただき，その下欄に（　　）書きにて，現在の名称を記載してください。

例）　〇〇大学　△△学部

（□□学部）

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

・学部の設置の場合：「〇〇大学　〇〇学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学　〇〇学部　〇〇学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学　〇〇学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学　〇〇学部　〇〇学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は，表題を修正してください。

「意見伺い」の場合は，表題を修正してください。

目　　次

四国大学看護学部設置に係る設置計画履行状況報告書

１　調査対象大学等の概要等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（１）設置者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（２）大学名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（３）大学の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（４）管理運営組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（５）調査対象学部等の名称，定員，入学者の状況・・・・・・・・・・２

２　授業科目の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
（１）授業科目表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
（２）授業科目数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
（３）未開講科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
（４）廃止科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
（５）授業科目を未開講又は廃止したことに係る
「大学の所見」及び「学生への周知方法」・・・９
（６）「認可時の計画の授業科目数の計」に対する
「未開講科目と廃止科目の計」の割合・・・・９

３　施設・設備の整備状況，経費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

４　既設大学等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

５　教員組織の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
（１）担当教員表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
（２）専任教員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

６　留意事項に対する履行状況等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

７　その他全般的事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
（１）設置計画変更事項等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
（２）教員の資質の維持向上の方策(FD 活動含む)・・・・・・・・・・32
（３）自己点検・評価等に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・34
（４）情報提供に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

別　紙　建築等設置計画変更書

１　調査対象大学等の概要等

（１）設　置　者

学　校　法　人　　四　国　大　学

（２）大　学　名

四　　国　　大　　学

（３）大学の位置

〒７７１－１１９２
徳島県徳島市応神町古川字戎子野１２３－１

（注）・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合，本部の位置を（　）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には，複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

（４）管理運営組織

職　　名	届　　出　　時	変　更　状　況	備　　考
理 事 長	（ サトウ　イチロウ ） 佐藤　一郎 （平成１４年４月１日）		
学　　長	（ フクオカ　ノボル ） 福　岡　　登 （平成１３年４月１日）		
学 部 長	（ エサキ　フサコ ） 江﨑　フサ子 （平成２１年４月１日）		
学科長等	（ テラオ　トシコ ） 寺尾　紀子 （平成２１年４月１日）		

（注）・「変更状況」は，変更があった場合に記入し，併せて「備考」に変更の理由と変更年月日，報告年度を（　）書きで記入してください。
（例）平成１９年度に報告済の内容　→（19）
平成２２年度に報告する内容　→（22）
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば，「変更状況」に赤字にて見え消し修正するとともに，上記と同様に「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には，「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

（５）　調査対象学部等の名称，定員，入学者の状況等

（注）・　当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等，定員を定めている組織ごとに記入してください。
・　様式は，平成１９年度開設の４年制の学科の場合（平成２２年度までの４年間）ですが，開設年度・修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が３年以下の場合には欄を削除し，５年以上の場合には，欄を設けてください。）

（５）－①　調査対象学部等の名称，定員

調査対象学部等の名称（学位）	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士（看護学）	年 4	人 80	年次 人 5	人 330	

（注）・定員を変更した場合は，「備考」に変更前の人数，変更年月及び報告年度を（　）書きで記入してください。

（５）－②　調査対象学部等の入学者の状況

区分＼対象年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平均入学定員超過率	備考
A　入学定員	人 （－） 80	人 （－） 80	人 （　）	人 （　）	1.14倍	
志願者数	（－） 165	（－） 329	（　）	（　）		
受験者数	（－） 160	（－） 321	（　）	（　）		
合格者数	（－） 129	（－） 146	（　）	（　）		
B　入学者数	（－） 85	（－） 98	（　）	（　）		
入学定員超過率 B／A	（－） 1.06	（－） 1.22	（　）	（　）		

（注）・（　）内には，編入学の状況について外数で記入してください。なお，編入学を複数年次で行っている場合には，((　))書きとするなどし，その旨を「備考」に付記してください。 該当がない年には「－」を記入してください。
・「平均入学定員超過率」には，開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については，小数点以下第３位を切り捨て，小数点以下第２位まで記入し，平均入学定員超過率も同様の方法としてください。
・「平成２２年度」には，平成２２年５月１日現在の状況を記入してください。
・「平成１９～２１年度」には，確定した数値を記入してください。

（５）－③　調査対象学部等の在学者の状況

学年＼対象年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	備考
１年次	[　－　] 85	[　－　] 98	[　　]	[　　]	
２年次		[　－　] 82	[　　]	[　　]	
３年次			[　　]	[　　]	
４年次				[　　]	
計	[　－　] 85	[　－　] 180	[　　]	[　　]	

（注）・[　　]内には，留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・留学生については，「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により，我が国の大学（大学院を含む。），短期大学，高等専門学校，専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・短期交換留学生など，定員内に含めていない学生については記入しないでください。
・各年度の５月１日現在の状況を記入してください。

（５）－④　調査対象学部等の退学者等の状況

区　分 対象年度	退学者数（ａ）	入学者数（ｂ）	入学者に対する退学者数の割合 （a/ｂ）
平成２１年度	計 3　[0] うち平成２１年度入学者　3人	（累積）計 85　[0] うち平成２１年度　85人	[0 %] 3.5 %
	（主な退学理由） ・就学意欲の低下により、就学中よりアルバイト勤務をしていた先へ就職。（１名） ・退学者の地元の看護専門学校へ入学。（１名） ・学生個人の心身に関する事情により療養のため帰郷し、地元の看護専門学校へ次年度入学を希望。（１名）		
平成２２年度	計　0　[0] うち平成２１年度入学者　0人 うち平成２２年度入学者　0人	（累積）計 183　[0] うち平成２１年度　85人 うち平成２２年度　98人	[0 %] 0 %
	（主な退学理由）		
平成２３年度	計　[　] うち平成２１年度入学者　人 うち平成２２年度入学者　人 うち平成２３年度入学者　人	（累積）計　[　] うち平成２１年度　人 うち平成２２年度　人 うち平成２３年度　人	[　%] %
	（主な退学理由）		
平成２４年度	計　[　] うち平成２１年度入学者　人 うち平成２２年度入学者　人 うち平成２３年度入学者　人 うち平成２４年度入学者　人	（累積）計　[　] 平成２１年度　人 平成２２年度　人 平成２３年度　人 平成２４年度　人	[　%] %
	（主な退学理由）		

（注）・［　］内には，留学生の状況について内数で記入してください。
・留学生については，「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により，我が国の大学（大学院を含む。），短期大学，高等専門学校，専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・「入学者数に対する退学者数の割合」は，各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者（累積）で除した割合（%）を記入してください。その際，小数点以下第2位を四捨五入し，小数点以下第1位までを記入してください。
・「主な退学理由」は，下の項目を参考に，その人数も含めて記入してください。
・就学意欲の低下　・学力不足　・他の教育機関への入学・転学　・海外留学
・就職　・学生個人の心身に関する事情　・家庭の事情　・除籍　・その他
・「平成22年度」については5月1日現在の状況を記入してください。
・「平成19～21年度」には，確定した数値を記入してください。

２ 授業科目の概要

〈看護学部　看護学科〉

（１）授業科目表

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備　考
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教養科目	人間と言語	教養英語Ⅰ	1 前	2								
		教養英語Ⅱ	1 後	2								
		教養英語Ⅲ	2 前	2								
		教養英語Ⅳ	2 後	2								
		教養国語	1 前	2								
		フランス語Ⅰ	2･3 前		2							
		フランス語Ⅱ	2･3 後		2							
		ドイツ語Ⅰ	2･3 前		2							
		ドイツ語Ⅱ	2･3 後		2							
		中国語Ⅰ	2･3 前		2							
		中国語Ⅱ	2･3 後		2							
	人間と環境（社会・文化）	人間論(含大学論)	1 後	2								
		言語と文化	1･2 後		2							
		地域と文化	1･2 前		2							
		人権思想と歴史	1･2 前		2							
		現代社会と人間	1 後		2							
		西洋の歴史と思想	1･2･3 ~~後~~前		2							カリキュラム編成の都合により開講時期を変更(21)
		日本の歴史と思想（含東洋）	1･2･3 後		2							
		近代日本の教育	1･2 前		2							
		世界の中の日本経済	1･2 ~~後~~前		2							カリキュラム編成の都合により開講時期を変更(21)
		西洋の政治思想史	1･2 後		2							
		中国の法思想	1･2 ~~後~~前		2							カリキュラム編成の都合により開講時期を変更(21)
		日本国憲法	1 後		2							
		考古学	1 前		2							
		環境と人間	1 後	2								
		徳島の研究	1･2･3 後		2							
		生命と倫理	1･2 前		2							

〈看護学部　看護学科〉

（１）授業科目表

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備　考
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教養科目	人間と環境（社会・文化）	四国いやしの道	1･2 後		2							
		国際関係・国際理解	1･2 前		2							
		ヨーロッパ研究	1･2 後		2							
		アメリカ研究	1･2 後		2							
		キャリア開発	3 前		2							
		社会参加の人間学	3 前		2							
		ＮＰＯ・ボランテイア活動論	1･2 後		2							
		災害と防災の知識	1･2 後		2							
	人間と健康	社会集団と人間心理	1･2･3 後	2								
		カウンセリング入門	1 後		2							
		自然科学の進歩	1･2 ~~後~~ 前		2							カリキュラム編成の都合により開講時期を変更(21)
		水の科学	1･2 後		2							
		水と生命と健康	1･2 後		2		1					
		健康スポーツ	1･2 後		2							
	人間と情報	情報処理	1 後	2								
		現代社会と知的財産法	1 前		2							
		総合ゼミ	1 通	4			3		1			
	基礎科目	生物学基礎	1 前		2		1					
		化学基礎	1 前		2		1					
		物理学基礎	未開講 ~~未開講~~ 1 後		2							履修希望者がいなかったため（22）担当予定教員（兼任）の急な辞退のため未開講(21)
		数学基礎	1 後		2							
		統計学基礎	1 後		2							
専門基礎科目	人間と健康	身体の構造と機能Ⅰ（呼吸・循環・消化器系）	1 前	2			1					
		身体の構造と機能Ⅱ（脳神経・骨関節・感覚器系）	1 後	2			1					
		栄養学	1 後	2								
		生化学	1 後	1			1					
		薬理学	1 後	1			1					

〈看護学部　看護学科〉

（１）授業科目表

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備　考
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	人間と健康	微生物学	1 後	1			1					
		人間発達学	1 前	1								
		健康科学概論	1 前	1			4	1				
		健康教育論	2 後	2			1					
		女性学	1 後		1							
		女性と胎児の薬理学	4 前			1	1					
		人間関係論	1 後		1							
		臨床心理学	1 後		1		1					
	環境と健康	疾病論(総論)	1 後	1								
		疾病論Ⅰ（呼吸・循環・造血器系）	2 前	1								
		疾病論Ⅱ（消化・腎・泌尿器系）	2 前	1								
		疾病論Ⅲ（内分泌・代謝・生殖器系）	2 前	1								
		疾病論Ⅳ（脳・神経・運動器系）	2 前	1								
		疾病論Ⅴ（精神・感覚器系）	2 前	1			1					
		公衆衛生学（産業保健含む。）	1 後	1			1					
		保健福祉行政論	3 後	2								
		疫学・保健統計学	3 通	3			1					
		学校保健Ⅰ（総論）	2 後	1					1			
		学校保健Ⅱ（方法論）	3 後	1					1			
専門科目	看護の基本	看護学概論	1 前	1			1					
		看護理論演習	1 後	1			8	6	3			
		ヘルスアセスメント	1 後	1			2	2		1	5	
		生活行動援助論	1 通	1				1				
		生活行動援助技術	1 通	1			2	2		1	5	
		治療過程に伴う援助論	2 前	1			1					
		治療過程に伴う援助技術	2 前	1			2	2		1	5	
		看護過程論	2 後	1			2	2		1		

〈看護学部　看護学科〉

（１）授業科目表

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備　考
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	看護の基本		フィールド体験実習	1 前	1			8	6	3			
			基礎看護学実習Ⅰ（看護の対象・環境）	1 後	1			2	2		7	9	
			基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	2 後	2			2	2		7	9	
	人間と環境の相互作用の保持・強化	生涯発達看護論	成人・老年看護学概論	2 前	1			2					
			精神看護学概論	2 前	1								
			在宅看護概論	2 前	1			1					
			成人・老年保健論	2 前	1			2					
			精神保健論	2 前	1			1					
			成人・老年看護学実習Ⅰ（看護の対象）	2 前	1			3		2	1		
		家族発達看護論	母性・小児看護学概論	2 前	1			1	1				
			母性保健論	2 前	1				1				
			小児保健論	2 前	1				1				
			母性看護方法論	2 後	2				1	1		1	
			小児看護方法論	2 後	2				1			2	
			母性看護学実習	3 前	2			1	1	1	2	1	
			小児看護学実習	3 前	2				1			2	
			助産学概論	3 後		1		1					
			助産診断・技術学Ⅰ（助産過程の基礎）	3 後			2		1	1	2	1	
			助産診断・技術学Ⅱ（助産過程の展開）	4 前			2		1	1	2	1	
			助産管理	4 前		1			1				
			周産期医学	4 前			1						
			プライマリーケア実習	4 前			1	1	1	1	2	1	
			助産学実習	4 前			6	1	1	1	2	1	
		地域看護学	地域看護学概論	3 前	1			1					
			地域看護方法論Ⅰ（地域看護基本技術）	3 前	1				1		1		
			地域看護方法論Ⅱ（地域看護活動論）	3 後	1				1		1		
			地域看護方法論Ⅲ（産業看護活動論・健康危機看護管理論）	3 後	1			1	1		1		
			地域看護方法論Ⅳ（地域看護基本技術演習）	4 前	1			1	1		1		
			地域看護学実習	4 前	3			1	1		1		

〈看護学部　看護学科〉

（1）授業科目表

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備　考
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	人間と環境の相互作用の修正	慢性期・リハビリテーション看護論	成人・老年看護方法論Ⅰ（慢性期）	2 後	1			1		1	1		
			成人・老年看護方法論Ⅱ（リハビリテーション）	2 後	1			1		1	1		
			在宅看護方法論	3 後	1			1			1	1	
			精神看護方法論Ⅰ（精神障害と看護の特徴）	2 後	1				1		1		
			精神看護方法論Ⅱ（看護の実際）	2 後	1				1		1		
			成人・老年看護学実習Ⅱ（慢性期・リハビリテーション）	3 前	4			1		1	1	2	
			成人・老年看護学実習Ⅳ（施設）	4 前	1			1			1		
			精神看護学実習	3 前	2				1		1	1	
			在宅看護論実習	4 前	1			1			1	1	
	人間と環境の相互作用の回復・保護	急性期・ターミナルケア論	成人・老年看護方法論Ⅲ（救命・救急）	2 後	1					2	1	3	
			成人・老年看護方法論Ⅳ（周手術期）	2 後	1					2	1	3	
			成人・老年看護方法論Ⅴ（ﾀｰﾐﾅﾙｹｱ）	2 後	1			1					
			成人・老年看護学実習Ⅲ（急性期）	3 前	2			1		1		3	
	看護学総合		看護倫理	3 後	1			1					
			看護管理論	3 後	1			1					
			災害・救急看護論	3 後	1				1	1		2	
			看護史・制度論	2 前		1		1					
			家族看護論	3 後		1		1					
			看護教育論	3 後		1		1					
			国際看護論	3 後		1					1		
			生活習慣看護論	3 後	1			1					
			看護研究方法論	3 後	1			1					
			看護研究	4 通	2			11	6	4			
	看護学総合		課題探求ゼミナールⅠ	2 通	1			11	6	4			
			課題探求ゼミナールⅡ	3 通	1			11	6	4			
			総合実習	4 後	2			8	6	3	7		

（2）授業科目数

認可時の計画				変更状況				備　考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 82	科目 48	科目 6	科目 136	科目 82 [0]	科目 47 [△1]	科目 6 [0]	科目 135 [△1]	選択科目数1減は、本年度、履修希望者がいなかったため、「物理学基礎」（共通教養科目）が未開講となったことによる。

（３） 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

（注）・設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

（４） 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

（注）・設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

（５） 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

昨年度、担当予定教員（兼任）の一身上の都合による急な辞退のため、共通教養科目「物理学基礎」（選択科目）が未開講となっていたが、本年度は、履修希望者がなく、引き続き未開講となった。
今後、希望者が出てきた場合は、「学修支援センター」の課外講座で対応することを、年度当初のオリエンテーションで学生に説明した。
今後とも、学生のニーズや希望にきめ細かく対応し、カリキュラム編成の方針・理念を損なわないように努めたい。

（注）・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

（６） 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.01}$$

（注）・小数点以下第３位を切り捨て，小数点第２位までを記入してください。

３　施設・設備の整備状況，経費

区分		内容				備考
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	四国大学短期大学部と共用 運動場用地のうち日ノ上校地の一部に次の借用地を含む。 借用面積　11,031㎡ 貸主　四国開発(株) 期間　平成16年1月 1日から 平成41年5月31日まで 日ノ上校地 徒歩7分,0.5km 購入及び登記による変更(21)
	校舎敷地	0㎡	87,018 ㎡	0㎡	87,018 ㎡	
	運動場用地	0㎡	26,448 ~~26,410~~ ㎡	0㎡	26,448 ~~26,410~~ ㎡	
	小計	0㎡	113,466 ~~113,428~~ ㎡	0㎡	113,466 ~~113,428~~ ㎡	
	その他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡	
	合計	0㎡	113,466 ~~113,428~~ ㎡	0㎡	113,466 ~~113,428~~ ㎡	
(2) 校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	四国大学短期大学部と共用 既存校舎改修工事等及び用途変更等による変更(22) 登記による変更(21)
		22,062 ~~23,420~~ ~~23,423~~ ㎡ 23,420 （~~23,423~~㎡）	35,879 ~~32,707~~ ~~32,781~~ ㎡ 32,707 （~~32,781~~㎡）	6,795 ~~8,966~~ ~~8,967~~ ㎡ 8,966 （~~8,967~~㎡）	64,736 ~~65,093~~ ~~65,171~~ ㎡ 65,093 （~~65,171~~㎡）	

(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	68 ~~70~~ 室	62 室	178 ~~182~~ 室	19 室 （補助職員 4 人）	4 ~~3~~ 室 （補助職員 2 ~~1~~ 人）	既存校舎改修工事及び用途変更等による変更(22) 施設新設に伴う増(22)

(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	看護学部　看護学科	30 室	

(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体で共用分
	看護学部	3,800〔170〕 2,547 〔96〕 ~~(2,250 〔70〕)~~	63〔 13 〕 （ 41〔11〕）	1,303 〔740〕 （ 740〔740〕）	140 71 ~~(68)~~	2,638 1,710 ~~(1,830)~~	186 71 ~~(29)~~	図書：377,331〔60,234〕 学術雑誌：6,102〔 620〕 電子ジャーナル：3,800〔 3,800〕 視聴覚資料：16,624〔 2,345〕 機械・器具：27,067 標本：116 購入価格減及び点数積算方法変更（機械・器具）等による変更(22)
	計	3,800〔170〕 2,547 〔96〕 ~~(2,250 〔70〕)~~	63〔 13 〕 （ 41〔11〕）	1,303 〔740〕 （ 740〔740〕）	140 71 ~~(68)~~	2,638 1,710 ~~(1,830)~~	186 71 ~~(29)~~	

(6) 図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数
	4,866㎡	454席	約 450,000冊

(7) 体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	2,291㎡	プール施設　65㎡ 弓道場　379㎡	研修館　1,866㎡ 日ノ上運動場管理棟　623㎡

(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費は大短で共用
経費の見積り	教員１人当り研究費等	440 千円	440 千円	図書購入費	12,000 千円	9,697 ~~9,681~~ 千円	6,876 千円	当初見込み増(22)
	共同研究費等	27,000 千円	27,000 千円	設備購入費	128,628 ~~135,609~~ 千円	37,370 ~~37,400~~ 千円	6,587 千円	見積予定価額の減少(22)

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,562 千円	1,282 千円	1,282 千円	1,282 千円	－ 千円	－ 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	資産運用収入、手数料収入などを充てる。

（注）１　認可時の計画を設置認可申請書の様式第２号（その１）に準じて作成してください。

２　複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。

３　運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を備考欄に記入してください。

４　昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては，変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに，その理由及び報告年度「（22）」を「備考」欄に朱書きしてください。
　なお，昨年度の報告において朱書きで見え消しした部分については，黒字で記載してください。

５　校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少，建築計画の遅延）がある場合には，《別紙様式２》により，「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

４　既設大学等の状況

大学の名称	四国大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	3年次 人	人		倍			
文学部							昭和47年度	徳島県徳島市応神町古川字戎子野123番地1	
日本文学科	4	45	2	184	学士(日本文学)	1.07	昭和47年度		
書道文化学科	4	40	2	164	学士(書道文化学)	0.48	平成13年度		
国際文化学科	4	40	2	164	学士(英語文化学)	0.61	昭和47年度		平成24年度卒業生より学位を学士(国際文化学)に変更予定
経営情報学部							平成 4年度		
経営情報学科	4	85	6	352	学士(経営情報学)	1.00	平成 4年度		
メディア情報学科	4	90	6	372	学士(情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ学)	0.64	平成13年度		平成25年度卒業生より学位を学士(メディア情報学)に変更予定
生活科学部							昭和41年度		
生活科学科	4	30	2	124	学士(生活科学)	0.69	昭和41年度		
養護保健学科	4	―	―	―	学士(養護保健学)	―	平成13年度		平成21年度から学生募集停止
管理栄養士養成課程	4	70	5	290	学士(保健栄養学)	1.13	昭和43年度		
児童学科	4	100	7	414	学士(児童学)	0.93	昭和43年度		
看護学部							平成21年度		
看護学科	4	80	5	330	学士(看護学)	1.13	平成21年度		

大学の名称	四国大学短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科	2	70	―	140	短期大学士(ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ)	0.75	平成13年度	徳島県徳島市応神町古川字戎子野123番地1	
人間健康科							昭和36年度		
食物栄養専攻	2	40	―	80	短期大学士(食物栄養)	0.67	昭和36年度		
介護福祉専攻	2	50	―	100	短期大学士(生活福祉)	0.76	平成元年度		平成22年度より収容定員を110名から80名に変更
幼児教育保育科	2	80	―	190	短期大学士(幼児教育保育)	0.64	昭和39年度		
音楽科	2	20	―	45	短期大学士(音楽)	0.55	昭和43年度		平成22年度より収容定員を25名から20名に変更

（注）・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が，既に設置している全ての大学の学部，学部の学科，短期大学の学科及び高等専門学校の学科について，大学，短期大学又は高等専門学校ごとに，平成２２年５月１日現在の状況を記入してください。
（専攻科に係るものについては，記入する必要はありません。）

・認可申請書の様式第２号（その１の１）に準じて作成してください。

・「定員超過率」には，過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第２位まで（小数点第３位を切り捨て）を，学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には，専攻課程）単位で記入してください。なお，学生募集停止を行った学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には，専攻課程）の記載は不要です。

・学生募集を停止している学部等がある場合，入学定員と収容定員は「－」とし，「備考」に「平成○年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況
〈看護学部　看護学科〉

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授（学部長）	江﨑 フサ子	平成21年4月	健康科学概論　※ 看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学実習Ⅰ（看護の対象） 成人・老年看護方法論Ⅴ（ターミナルケア）※ 成人・老年看護学実習Ⅲ（急性期） 看護史・制度論 看護教育論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	教授	峯岸 由紀子	平成22年4月	看護理論演習 ヘルスアセスメント 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助論 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 フィールド体験実習 基礎看護学実習Ⅰ（看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ（看護過程） 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	教授	稲田 久美子	平成21年4月	健康科学概論　※ 看護学概論 看護理論演習 ヘルスアセスメント 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 フィールド体験実習 基礎看護学実習Ⅰ（看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ（看護過程） 看護倫理 看護管理論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	坪井　敬子	平成21年4月	健康科学概論　※ 看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学概論　※ 成人・老年保健論　※ 成人・老年看護学実習Ⅰ （看護の対象） 成人・老年看護方法論Ⅰ （慢性期） 成人・老年看護方法論Ⅱ （リハビリテーション） 成人・老年看護学実習Ⅱ （慢性期・リハビリテーション） 生活習慣看護論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	教授	中野　静子	平成22年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学概論　※ 成人・老年保健論　※ 成人・老年看護学実習Ⅰ （看護の対象） 成人・老年看護学実習Ⅳ （施設） 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	教授	寺尾　紀子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 母性・小児看護学概論　※ 母性看護学実習 助産学概論 プライマリーケア実習 助産学実習 家族看護論　※ 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	教授	富田 真佐子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 在宅看護概論 在宅看護方法論 在宅看護論実習 看護研究方法論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	教授	忠津 佐和代	平成21年4月	健康教育論 看護理論演習 フィールド体験実習 地域看護学概論 地域看護方法論Ⅲ （産業看護活動論・健康危機看護管理論） 地域看護方法論Ⅳ （地域看護基本技術演習） 地域看護学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	鈴木　泰夫	平成21年4月	総合ゼミ 健康科学概論　※ 公衆衛生学(産業保健含む。) 疫学・保健統計学						
専	教授	森田　恭二	平成21年4月	総合ゼミ 生物学基礎 化学基礎 生化学 薬理学 女性と胎児の薬理学 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ						
専	教授	山本　硬治	平成21年4月	水と生命と健康 総合ゼミ 身体の構造と機能Ⅰ （呼吸・循環・消化器系） 身体の構造と機能Ⅱ （脳神経・骨関節・感覚器系） 微生物学 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ						
専	教授	森内　　幹	平成21年4月	臨床心理学　※						
専	教授	磯谷　俊明	平成22年4月	疾病論Ⅴ（精神・感覚器系）※ 精神保健論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ						
専	准教授	檀原 いづみ	平成21年4月	看護理論演習 ヘルスアセスメント 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 フィールド体験実習 基礎看護学実習Ⅰ （看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ （看護過程） 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	准教授	新山　悦子	平成21年4月	看護理論演習 ヘルスアセスメント 生活行動援助論 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 フィールド体験実習 基礎看護学実習Ⅰ （看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ （看護過程） 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	小川　佳代	平成21年4月	健康科学概論　※ 看護理論演習 フィールド体験実習 母性・小児看護学概論　※ 小児保健論 小児看護方法論 小児看護学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	准教授	髙橋　順子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 母性保健論 母性看護方法論 母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ （助産過程の基礎） 助産診断・技術学Ⅱ （助産過程の展開） 助産管理 プライマリーケア実習 助産学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	准教授	橋本　茂	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 精神看護方法論Ⅰ （精神障害と看護の特徴） 精神看護方法論Ⅱ （看護の実際） 精神看護学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	准教授	武田　道子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 地域看護方法論Ⅰ （地域看護基本技術） 地域看護方法論Ⅱ （地域看護活動論） 地域看護方法論Ⅲ （産業看護活動論・健康危機看護管理論） 地域看護方法論Ⅳ （地域看護基本技術演習） 地域看護学実習 災害・救急看護論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	講師	石井　俊行	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学実習Ⅰ （看護の対象） 成人・老年看護方法論Ⅲ （救命・救急） 成人・老年看護方法論Ⅳ （周手術期） 成人・老年看護学実習Ⅲ （急性期） 災害・救急看護論 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	松尾　恭子	平成21年4月	看護理論演習 フィールド体験実習 成人・老年看護学実習Ⅰ（看護の対象） 成人・老年看護方法論Ⅰ（慢性期） 成人・老年看護方法論Ⅱ（リハビリテーション） 成人・老年看護学実習Ⅱ（慢性期・リハビリテーション） 成人・老年看護方法論Ⅲ（救命・救急） 成人・老年看護方法論Ⅳ（周手術期） 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習						
専	講師	平野　文子	平成21年4月	看護理論演習	専	准教授	高橋　順子（60）	平成22年4月	母性看護方法論	平成22年3月 平野文子講師退職のため、担当者を変更(22) 設置認可時　教員審査済み
				フィールド体験実習 母性看護方法論 母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ（助産過程の基礎） 助産診断・技術学Ⅱ（助産過程の展開） プライマリーケア実習 助産学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習			後任未定		看護理論演習 フィールド体験実習 課題探求ゼミナールⅠ 母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ（助産過程の基礎） 助産診断・技術学Ⅱ（助産過程の展開） プライマリーケア実習 助産学実習 看護研究 課題探求ゼミナールⅡ 総合実習	平成22年3月 平野文子講師が退職したが、これらの科目は多数の教員で分担しているため支障なし(22) 平成22年3月 平野文子講師が辞任したが、これらの科目は次年度以降開講される科目であり、現在、後任担当を検討中。現時点では支障なし(22)
専	講師	棟方　百熊	平成21年4月	総合ゼミ 学校保健Ⅰ（総論） 学校保健Ⅱ（方法論） 看護研究 課題探求ゼミナールⅠ 課題探求ゼミナールⅡ						
専	助教	杉野　美礼	平成21年10月	ヘルスアセスメント 生活行動援助技術 治療過程に伴う援助技術 看護過程論 基礎看護学実習Ⅰ（看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ（看護過程） 成人・老年看護学実習Ⅱ（慢性期・リハビリテーション） 国際看護論　※ 総合実習						
専	**助教**	澤野　りき江	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ（看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ（看護過程） 成人・老年看護学実習Ⅰ（看護の対象） 成人・老年看護方法論Ⅰ（慢性期） 成人・老年看護方法論Ⅱ（リハビリテーション） 成人・老年看護学実習Ⅳ（施設） 成人・老年看護方法論Ⅲ（救命・救急） 成人・老年看護方法論Ⅳ（周手術期） 総合実習						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	齋藤　啓子	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ （看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ （看護過程） 母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ （助産過程の基礎） 助産診断・技術学Ⅱ （助産過程の展開） プライマリーケア実習 助産学実習 総合実習						
専	助教	牛越　幸子	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ （看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ （看護過程） 母性看護学実習 助産診断・技術学Ⅰ （助産過程の基礎） 助産診断・技術学Ⅱ （助産過程の展開） プライマリーケア実習 助産学実習 総合実習						
専	助教	藤代　知美	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ （看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ （看護過程） 精神看護方法論Ⅰ （精神障害と看護の特徴） 精神看護方法論Ⅱ （看護の実際） 精神看護学実習 総合実習						
専	助教	尾崎　八代	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ （看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ （看護過程） 地域看護方法論Ⅰ （地域看護基本技術） 地域看護方法論Ⅱ （地域看護活動論） 地域看護方法論Ⅲ （産業看護活動論・健康危機看護管理論） 地域看護方法論Ⅳ （地域看護基本技術演習） 地域看護学実習 総合実習						
専	助教	岩藤 のり子	平成21年4月	基礎看護学実習Ⅰ （看護の対象・環境） 基礎看護学実習Ⅱ （看護過程） 在宅看護方法論 在宅看護論実習 総合実習						
兼担	講師	上岡　千世	平成21年4月	臨床心理学　※ 成人・老年看護方法論Ⅴ （ターミナルケア）※ 家族看護論　※						
兼任	講師	山本　映子	平成21年4月	精神看護学概論						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	小野寺 房子	平成21年4月	国際看護論 ※						
兼任	講師	戸村 道子	平成21年4月	国際看護論 ※						
兼任	講師	稲岡 光子	平成21年4月	国際看護論 ※						
兼任	講師	河野 美香	平成21年4月	女性学						
兼任	講師	白神 皙	平成21年4月	疾病論（総論） ※ 疾病論Ⅰ （呼吸・循環・造血器系）	兼任	講師	橋本 吉弘（53）	平成21年10月	疾病論（総論）	平成21年10月 白神皙講師が一身上の都合で辞退したため担当者を変更(22)
					兼任	講師	河原 啓治（60）	平成22年4月	疾病論Ⅰ （呼吸・循環・造血器系）	平成22年4月 白神皙講師が一身上の都合で辞退したため、22年度より記載の3名で担当(22) （平成22年5月死亡）
					兼任	講師	重清 俊雄（60）	平成22年4月	疾病論Ⅰ （呼吸・循環・造血器系）	
					兼任	講師	三浦 眞司（52）	平成22年4月	疾病論Ⅰ （呼吸・循環・造血器系）	
兼任	講師	佐藤 香代	平成21年4月	疾病論Ⅱ （消化・腎・泌尿器系） 疾病論Ⅲ （内分泌・代謝・生殖器系）※						
兼任	講師	中山 孝善	平成21年4月	疾病論Ⅲ （内分泌・代謝・生殖器系）※						
兼任	講師	中田 雅敏	平成21年4月	疾病論（総論） ※ 疾病論Ⅳ （脳・神経・運動器系）						
兼任	講師	長江 哲夫	平成21年4月	疾病論Ⅴ （精神・感覚器系）※						
兼任	講師	大村 和正	平成21年4月	疾病論Ⅴ （精神・感覚器系）※						
兼任	講師	金村 章	平成21年4月	疾病論Ⅴ （精神・感覚器系）※						
兼任	講師	一宮 斉子	平成21年4月	疾病論Ⅴ （精神・感覚器系）※						
兼任	講師	西條 良香	平成21年4月	周産期医学						

共　通

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
兼担	教授	真鍋　俊照	平成214月	日本の歴史と思想（含東洋） 四国いやしの道						
兼担	教授	大原　剛	平成21年4月	教養国語 総合ゼミ						
兼担	教授	近藤　碩二	平成21年4月	言語と文化	兼担	教授	世羅　博昭 (69) (高)	平成22年4月	言語と文化	平成22年4月より 近藤碩二教授退職のため、担当者を変更(22)
兼担	教授	竹原　弘	平成21年4月	人間論(含大学論) 西洋の歴史と思想 西洋の政治思想史 生命と倫理　※ ヨーロッパ研究 総合ゼミ						
兼担	教授	田中　省造	平成21年4月	教養国語 四国いやしの道 総合ゼミ						
兼担	教授	田中　敏生	平成21年4月	教養国語						
兼担	教授	谷口　伸光	平成21年4月	総合ゼミ						
兼担	教授	友重　幸四郎	平成21年4月	教養国語						
兼担	教授	亀石　二三	平成21年4月	総合ゼミ						
兼担	教授	阿部　曜子	平成21年4月	教養英語Ⅱ 生命と倫理　※						
兼担	教授	岡本　俊彦	平成21年4月	教養英語Ⅳ						
兼担	教授	忠津　光治	平成21年4月	教養英語Ⅰ 教養英語Ⅲ 教養英語Ⅳ						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
兼担	教授	田中　孝雄	平成21年4月	教養英語Ⅱ						平成22年4月より 田中孝雄教授退職のため、他の２名の教員で分担し対応(22)
				教養英語Ⅲ	兼任	准教授	美馬　康男 (61)	平成22年4月	教養英語Ⅲ	平成22年4月より 田中孝雄教授退職のため担当者を変更（22）
				教養英語Ⅳ			後任未定			平成22年3月 田中孝雄教授が退職したが、本年度未開講科目であり支障なし(22)
兼担	教授	長尾　輝彦	平成21年4月	教養英語Ⅰ 教養英語Ⅳ						
兼担	教授	古田　八恵	平成21年4月	教養英語Ⅱ 教養英語Ⅲ 教養英語Ⅳ						
兼担	教授	横畠　康吉	平成21年4月	アメリカ研究 災害と防災の知識 総合ゼミ						
兼担	教授	小松　君代	平成21年4月	現代社会と人間 総合ゼミ					ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ }	平成22年4月より 石川栄作講師の一身上の都合による辞任のため、担当科目を追加（22）
兼担	教授	萩原　八郎	平成21年4月	国際関係・国際理解 アメリカ研究 総合ゼミ						
兼担	教授	蔵本　暢浩	平成21年4月	水の科学					総合ゼミ	平成22年4月より 津村健司准教授退職のため、担当科目を追加(22)
兼担	教授	羽賀　敏雄	平成21年4月	総合ゼミ						
兼担	教授	近藤　真紀	平成21年4月	栄養学						
兼担	教授	原田　寛子	平成21年4月	健康科学概論　※ 生命と倫理　※ 総合ゼミ	兼任	講師	原田　寛子 (72) (高)	平成22年4月	健康科学概論　※ 生命と倫理　※ 総合ゼミ	平成22年4月より 原田寛子教授、退職後も兼任講師として引き続き当該科目を担当(22) 平成22年4月より 原田寛子教授、退職後も兼任講師として引き続き当該科目を担当(22) 平成22年3月 原田寛子教授が退職したが、「総合ゼミ」は３９名の担当者がおり支障なし(22)
兼担	教授	安好　敏子	平成21年4月	カウンセリング入門						
兼担	教授	大谷　八峯	平成21年4月	総合ゼミ						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
兼担	教授	秋山　敬子	平成21年4月	総合ゼミ						
兼担	教授	鈴木　敏昭	平成21年4月	社会集団と人間心理 総合ゼミ 人間発達学						
兼担	准教授	辻　尚子	平成21年4月	総合ゼミ						
兼担	准教授	森上　洋光	平成21年4月	総合ゼミ						
兼担	准教授	喜多　三佳	平成21年4月	中国の法思想 総合ゼミ						
兼担	准教授	村井　礼	平成21年4月	現代社会と知的財産法						
兼担	准教授	中岡　泰子	平成21年4月	総合ゼミ 人間関係論						
兼担	准教授	坂口 久美子	平成21年4月	総合ゼミ						
兼担	准教授	板東　絹恵	平成21年4月	総合ゼミ						
兼担	准教授	小野　健司	平成21年4月	総合ゼミ 近代日本の教育						
兼担	講師	谷口　薫	平成21年4月	教養英語Ⅳ フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ						
兼担	講師	Mark Gragam Fennelly	平成21年4月	国際関係・国際理解 NPO・ボランティア活動論						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
兼担	講師	大久保 正信	平成21年4月	情報処理						
兼担	講師	関口 寛	平成21年4月	総合ゼミ					人間論（含大学論）	平成22年4月より 浅香寿穂准教授退職のため担当科目を追加(22)
兼担	講師	武市 泰彦	平成21年4月	総合ゼミ						
兼担	助教	佐伯 雅宣	平成21年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ						
兼担	助教	永井 真也	平成21年4月	総合ゼミ						
兼担	助教	范 永輝	平成21年4月	健康スポーツ						
兼任	教授	竹内 庵	平成21年4月	世界の中の日本経済						
兼任	教授	西尾 幸郎	平成21年4月	環境と人間						
兼任	教授	西堀 尚良	平成21年4月	自然科学の進歩						
兼任	教授	日開野 博	平成21年4月	NPO・ボランティア活動論						
兼任	教授	木村 彰	平成21年4月	環境と人間 社会参加の人間学						平成22年3月 木村彰教授が退職したが、並列授業で複数の担当者がおり支障なし(22)
					兼任	講師	坂東 治男 (61)	平成22年4月	社会参加の人間学	平成22年4月より 木村彰教授退職のため、担当者を変更(22)
兼任	准教授	宇山 裕士	平成21年4月	キャリア開発						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	岡田　和子	平成21年4月	教養英語Ⅰ						
兼任	准教授	小笠　泰史	平成21年4月	徳島の研究 総合ゼミ						
兼任	准教授	田村　伸代	平成21年4月	教養国語 総合ゼミ						
兼任	准教授	津村　健司	平成21年4月	総合ゼミ	兼担	教授	蔵本　暢浩 (67) (高)	平成22年4月	総合ゼミ	平成22年4月より 津村健二准教授が退職したため、担当者を変更(22)
兼任	准教授	内藤　正義	平成21年4月	教養英語Ⅰ 教養英語Ⅲ 教養英語Ⅳ						
兼任	准教授	吉田　一彦	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	秋山　賢治	平成21年4月	総合ゼミ						平成21年3月 秋山賢治准教授、一身上の都合により辞退。 「総合ゼミ」は39名の担当者で実施なので、支障はない。（21）
兼任	准教授	浦上　純二	平成21年4月	徳島の研究	兼任	准教授	武知　公雄 (60)	平成21年4月	徳島の研究	平成21年3月 浦上純二准教授の一身上の都合による辞退のため、担当者を変更(21)
					兼任	准教授	福井　清二 (61)	平成22年4月	徳島の研究	平成22年4月より 武知公雄准教授の一身上の都合による辞退のため、担当者を変更(21)
				物理学基礎			後任未定			平成21年3月 浦上純二准教授の一身上の都合による辞退のため未開講(21) 平成22年4月 履修希望者がいなかったので未開講(22)
兼任	准教授	白石　基章	平成21年4月	総合ゼミ	兼任	准教授	福井　清二 (61)	平成22年4月	総合ゼミ	平成22年4月より 白石基章准教授退職のため、担当者を変更(22)
兼任	准教授	赤尾　敏之	平成21年4月	総合ゼミ					化学基礎	平成21年5月より 村井尚志准教授の一身上の都合による辞退のため、担当科目を追加(22)
兼任	准教授	大平　憲一郎	平成21年4月	人間論（含大学論）	兼任	准教授	浅香　寿穂 (68) (高)	平成21年4月	人間論（含大学論）	平成20年11月 大平憲一郎准教授の一身上の都合による辞退のため、担当者を変更（21）
					兼担	講師	関口　寛 (37)	平成22年4月	人間論（含大学論）	平成22年4月より 浅香寿穂准教授退職のため、担当者を変更(22)
				生命と倫理　※	兼任	准教授	浅香　寿穂 (68) (高)	平成21年4月	生命と倫理　※	平成20年11月 大平憲一郎准教授の一身上の都合による辞退のため、担当者を変更（21）
									生命と倫理　※	平成22年４月より 浅香寿穂准教授、退職後も兼任講師として引き続き当該科目を担当(22)
				総合ゼミ						平成20年11月 大平憲一郎准教授が一身上の都合で辞退したが、「総合ゼミ」は、３９名で担当しており支障なし

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	加集　隆司	平成21年4月	総合ゼミ	兼任	准教授	福岡　卓一（60）	平成22年4月	総合ゼミ	平成22年４月より 加集隆司准教授退職のため、担当者を変更(22)
兼任	准教授	佐藤　昌宏	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	浅香　寿穂	平成21年4月	総合ゼミ						平成22年3月 浅香寿穂准教授が一身上の都合により辞退したが、「総合ゼミ」は他に３９名の担当者がおり支障な
					兼担・	講師	関口　寛（38）	平成22年4月	人間論(含大学論) 人間論(含大学論)	平成21年4月より 大平憲一郎辞退のため担当科目を追加(21) 平成22年４月より 浅香寿穂准教授退職のため、担当者を変更(22)
									生命と倫理　※	平成21年4月より 大平憲一郎辞退のため担当科目を追加(21) 平成22年４月より 浅香寿穂准教授、退職後も兼任講師として引き続き当該科目を担当(22)
兼任	准教授	池田　昌和	平成21年4月	総合ゼミ						
兼任	准教授	八島　哲夫	平成21年4月	徳島の研究 社会参加の人間学						
兼任	准教授	廣瀬　秀史	平成21年4月	数学基礎 統計学基礎						
兼任	准教授	富加見 恒治	平成21年4月	生物学基礎						
兼任	准教授	村井　尚志	平成21年4月	人間論(含大学論) 化学基礎 総合ゼミ						平成21年5月 村井尚志准教授が一身上の都合により辞退したが、並列授業で複数の担当者がおり支障なし(22)
					兼任	准教授	赤尾　敏之（69）（高）	平成21年5月	化学基礎	平成21年5月より 村井尚志准教授の一身上の都合による辞退のため、担当者を変更(22)
										平成21年5月 村井尚志准教授が一身上の都合により辞退したが、「総合ゼミ」は他に３９名の担当者がおり支障な
兼任	准教授	大平　孝子	平成21年4月	生命と倫理　※ 総合ゼミ						
兼任	講師	Luxton, Robeert S	平成21年4月	国際関係・国際理解 教養英語Ⅳ						
兼任	講師	大和　武生	平成21年4月	人権思想と歴史						
兼任	講師	宮崎　信也	平成21年4月	四国いやしの道						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名（年齢）	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	石川　栄作	平成21年4月	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	兼担	教授	小松　君代 (57)	平成22年4月	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	平成22年４月より 石川栄作講師の一身上の都合による辞退のため、担当者を変更(22)
兼任	講師	平井　松午	平成21年4月	地域と文化						
兼任	講師	中村　豊	平成21年4月	考古学						
兼任	講師	濵　高公	平成21年4月	日本国憲法						
兼任	講師	掛井　秀一	平成21年4月	情報処理	兼任	講師	橋爪　正樹 (52)	平成21年4月	情報処理	平成21年4月より 掛井秀一の本務校との関係で担当者を変更(21)
兼任	講師	藤田　雅文	平成21年4月	健康スポーツ						平成22年3月 藤田雅文講師が一身上の都合により辞退したが、他に4名の担当者がおり支障なし(22)
兼任	講師	都築　顯雄	平成21年4月	保健福祉行政論			後任未定			平成22年3月 都築顯雄講師が一身上の都合により辞任したが、開講まで時間があり現在教員を公募中(22)

（注）・認可申請書の様式第３号（その２の１）に準じて作成してください。
　なお，当該設置に係る学部，学科等に所属しない教員であって，全学共通，学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は，〈表題〉を「共通」とし，表を分けて作成してください。
・　後任が決まっていない場合には，「後任未定」と記入してください。
・　辞任者は「備考」に退職年月，氏名，理由を記入してください。
・　年齢は，就任年度に関わりなく，「認可時の計画」には，開設時現在の満年齢を，「変更状況」には，平成２２年５月１日現在の満年齢を記入してください。
・　教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合（「新規採用」，「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。）は，変更後の状況を記入するとともに，その理由，後任者が決まっていない場合は，「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し，及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
　また，「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「○年○月教員審査済」，変更書を提出し，教員判定の結果が出ていない場合は「○年○月変更書提出済」，変更書を提出予定の場合は「○年○月変更書提出予定」と記入してください。
　なお，設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は，「備考」に「（教員審査省略）」及びその変更の理由，変更年度（　）書き等のみを記入してください。

（２）専任教員数

認可時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
13 （10）	6 （6）	4 （4）	7 （6）	30 （26）	9 （9）	13 [　]	6 [　]	3 [△1]	7 [　]	29 [　]	7 [△2]	

（注）・「認可時の計画」には，設置認可時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに，（　）内に開設時の状況を記入し，「変更状況」には，平成２２年５月１日現在（就任予定の者を含む）の状況を記入するとともに，［　］内に設置認可時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

６　留意事項に対する履行状況等

区　　分	留　意　事　項	履　行　状　況	未履行事項について の実施計画
認　可　時 （20年10月）	（留意事項） 1 看護師、保健師のほかに助産師、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状(看護)の資格を取得可能としているが、設置の趣旨・目的に沿った看護教育の質の低下をまねかないようにすること。	入学後のオリエンテーションにおいて卒業要件である看護師・保健師の統合カリキュラムの履修モデルおよび助産師、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状(看護)取得希望者用の履修モデルを提示し、卒業や国家試験受験資格取得に必要な科目・単位について理解させるとともに、安易な資格取得に奔ることなく教育理念に即した科目履修に努力することを留意させた。また、卒業要件以外の資格・免許取得に関しては、人数制限を設け適切な時期に希望学生の中から、意欲・履修能力・成績等を勘案し選抜することとする。(21) 新入生へは前年度同様にオリエンテーションにおいて説明を行い、卒業や国家試験受験資格取得に必要な科目・単位について理解させるとともに、安易な資格取得に奔ることなく教育理念に即した科目履修に努力するよう促した。 平成21年度入学の教育職員免許取得希望者に関しては、１年次後期に希望者を募り選考を行った。選考方法は面接と履修済科目の単位認定結果を加味し総合的に検討をし、３科目の不可科目のある学生に関してはカリキュラム上教育職員免許取得のための履修が不可能と考え不合格とし、２科目の不可科目がある学生で養護・看護両教育職員免許取得希望者はどちらか一方の取得とすることとした。結果、養護教諭一種免許状取得希望者18名内16名合格、養護教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状(看護)取得希望者６名内６名合格とした。(22)	
	2 看護師及び保健師以外の資格取得については、卒業要件でないことを募集要項及び履修指導において明確に説明すること。特に、編入学生に対しては、多様な資格取得の困難性を募集要項等において予め理解させることができるようにしておくこと。	看護学科パンフレット、入試ガイドに看護師・保健師国家試験受験資格の卒業要件に加え、選択履修することで助産師国家試験受験資格・養護教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状（看護）が取得可能という旨を明記し募集活動を行った。また、履修要項、オリエンテーション資料にも詳述し、入学後行ったオリエンテーションにおいて学生に周知した。(21) 看護学科パンフレット、入試ガイドに加え、大学案内やホームページにも卒業要件・選択履修について明記し募集活動を行った。入学後は、履修要項、オリエンテーション資料へ詳述し説明を行い周知を図った。 平成23年度より募集を開始する編入学生には入学前に取得希望免許・資格と取得済み免許・資格を調査し、編入後にその希望を含めた単位認定を行うこととする。更に『編入学試験要項』に「希望する資格や免許取得に制約を受けることがあるので学科に相談すること。」と明記し周知を行う。(22)	編入学生に対しては、平成23年度の「編入学試験要項」に詳細を明記し募集を行うこととする。(21)

3 文学部日本文学科の入学定員超過の是正に努めること。

入学者数管理をより綿密に行うことで平成21年度入試では、入学定員超過率が1.00倍となった。また、修業年限相当期間における入学定員超過率の平均も1.21倍となっている(表1参照)。今後とも留意事項の遵守に鋭意努力したい。

表1 四国大学文学部日本文学科入学状況

	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	平均入学定員超過率
A 入学定員	人 45	人 45	人 45	人 45	倍 1.21
B 入学者数	61	55	58	45	
入学定員比 B/A	倍 1.35	倍 1.22	倍 1.28	倍 1.00	

(21)

平成22年度入試では、入学定員超過率が0.84倍となったため、修業年限相当期間における入学定員超過率の平均が1.08倍となった(表2参照)。今後とも留意事項の遵守に鋭意努力したい。

表2 四国大学文学部日本文学科入学状況

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	平均入学定員超過率
A 入学定員	人 45	人 45	人 45	人 45	倍 1.08
B 入学者数	55	58	45	38	
入学定員比 B/A	倍 1.22	倍 1.28	倍 1.00	倍 0.84	

(22)

	（その他意見） 1 臨地実習の同意書には、安全確保及び個人情報保護に関する内容を明記すること。	「看護学実習に係る個人情報の保護に関する取り扱い」「臨地実習における受持ち患者承諾書」「看護学実習における安全管理」を覚書に添付し、臨地実習先へ提出する。現在、実習開始に向け担当者が実習施設を訪問し、実習計画を協議している。その際に上記の内容についても説明を加えている。(21) 実習を行う全学生および全教員が、安全確保および個人情報保護に関する内容を含む「臨地時実習誓約書」を実習施設に提出し、遵守に努め実習を終了した。 また、実習開始前に『看護学実習要項【共通編】』に記載されているそれぞれの内容について、実習指導者と実習担当教職員が再確認を行った。(22)	
	2 実習施設側の個人情報保護・事故防止の方針に従うことを明確にすること。	『臨地実習に関する覚書』に「指示及び服務の内容」「守秘義務」の項目を設け実習施設と協定を結んだ。また、各看護学実習に共通する注意事項等を編集して作成した『実習要項共通編』に上記の内容を盛込み、「看護学実習概論」や実習前のオリエンテーション等で学生に繰り返し指導を行う。(21) 実習開始前に、『看護学実習要項【共通編】』に記載されているそれぞれの内容について、実習指導者と実習担当教職員が再確認を行った。 『看護学実習要項【共通編】』の「看護学実習に係る個人情報の保護に関して」の中に「看護学実習における守秘義務」「学生自身および実習関係者に関する情報の保護と守秘義務」を詳述し、「看護学概論」や実習前の事前学習,オリエンテーション等において指導を行い実行された。(22)	

	（その他意見） 1 臨地実習の同意書には、安全確保及び個人情報保護に関する内容を明記すること。	「看護学実習に係る個人情報の保護に関する取り扱い」「臨地実習における受持ち患者承諾書」「看護学実習における安全管理」を覚書に添付し、臨地実習先へ提出する。現在、実習開始に向け担当者が実習施設を訪問し、実習計画を協議している。その際に上記の内容についても説明を加えている。(21) 実習を行う全学生および全教員が、安全確保および個人情報保護に関する内容を含む「臨地時実習誓約書」を実習施設に提出し、遵守に努め実習を終了した。 また、実習開始前に『看護学実習要項【共通編】』に記載されているそれぞれの内容について、実習指導者と実習担当教職員が再確認を行った。(22)	
	2 実習施設側の個人情報保護・事故防止の方針に従うことを明確にすること。	『臨地実習に関する覚書』に「指示及び服務の内容」「守秘義務」の項目を設け実習施設と協定を結んだ。また、各看護学実習に共通する注意事項等を編集して作成した『実習要項共通編』に上記の内容を盛込み、「看護学実習概論」や実習前のオリエンテーション等で学生に繰り返し指導を行う。(21) 実習開始前に、『看護学実習要項【共通編】』に記載されているそれぞれの内容について、実習指導者と実習担当教職員が再確認を行った。 『看護学実習要項【共通編】』の「看護学実習に係る個人情報の保護に関して」の中に「看護学実習における守秘義務」「学生自身および実習関係者に関する情報の保護と守秘義務」を詳述し、「看護学概論」や実習前の事前学習,オリエンテーション等において指導を行い実行された。(22)	

	3 上記資格取得に関連して、編入学生に対して補講を前提とすることは教育上望ましくないので、正規の時間割の中に位置づけるように配慮すること。	編入学生の履修モデルを短期大学、看護専門学校の3年課程ならびに2年課程の3パターンで作成した。なお、入学者個々人の既修得単位の状況が異なるため、各人に適した履修指導を入学前から個別に行う。(21) 平成23年度からの編入学生受入れに備えて『編入学試験要項』を作成中である。その中に、資格・免許の取得について、入学前に取得希望免許・資格と取得済免許・資格を調査し、その希望を含めた単位認定を行うことを明記している。 編入学後は、認定単位および免許・資格取得等についてのオリエンテーションを実施し、3パターン（短期大学、看護専門学校の3年課程ならびに2年課程）の履修モデルを参考に履修指導を行うこととする。(22)	
設置計画履行状況調査時（平成２１年５月）	該当なし。		
設置計画履行状況調査時（〇年〇月）			

（注）１　「認可時」欄には，当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と，それに対する履行状況等について，毎年度，具体的に記入し，報告年度（丸数字）を付記してください。

２　「設置計画履行状況調査時」欄には，当該設置計画履行状況調査の結果，付された留意事項に対する履行状況等について，毎年度，具体的に記入するとともに，その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。

３　入学定員超過に係る留意事項への履行状況については，指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。

４　該当がない場合には，「該当なし」と記入してください。

７　その他全般的事項

＜看護学部　看護学科＞

（１） 設置計画変更事項等

認　可　時　の　計　画	変更内容・状況，今後の見通しなど
	特に、変更はありません。

（２） 教員の資質の維持向上の方策（ＦＤ活動含む）

①　実施体制

ａ　委員会の設置状況

※関係規程等を転載又は添付すること

教員の資質の維持向上については、毎年度、理事会より示される具体的な指針を受けて各教員が努力しているところであるが、全学的には学長を委員長とするＦＤ委員会が中心となり各種の取組を推進している。
また、当該学部においては、学部ＦＤ委員会、研究交流推進委員会を置き、附属看護学研究所とも連携を図りながら取組の充実を図っている。

ｂ　委員会の開催状況（教員の参加状況含む）　（資料１，２）

⑴ ＦＤ委員会は、学長、代表学部長（２名）、各学部教授等（２名）、教務部長、共通教養教育運営委員長、事務局（２名）の計１７名で構成され、ほぼ全員が参加し、毎月１回開催されている。

⑵ 学部ＦＤ委員会は４名の委員を置き、代表２名が全学ＦＤ委員会に出席している。毎月１回開催。

⑶ 研究交流推進委員会は委員４名を置き、研究の推進と看護学研究所との連携の役割を担う。毎月１回開催。

⑷ 附属看護学研究所は、学部開設に先立ち、平成１９年度から設置されており、現在、看護学部教員全員が所属している。学術調査研究の推進が主たる目的であるが、その活動を通して教員の資質能力の向上に寄与することとなる。
平成21年度は、2回（7月14日、12月4日）学術講演会を実施。学内外から多くの参加者があった。
第1回　「アメリカにおけるナースプラクティショナーの教育内容や役割」
講師：幸子・ｋ・クローズ氏（米　ミシガン州サギノバレー州立大学　教授）
第2回　「今、問われている看護研究の倫理」
講師：齋藤悦子氏（愛媛県看護協会研究倫理委員長　元藤田保健衛生大学教授）

ｃ　委員会の審議事項等

⑴ ＦＤ委員会の審議事項は、委員会規則第２条に規定されており、その内容は以下の通りである。
〇授業改善のための研修会　〇学生による授業評価の実施　〇新任教員研修会　〇教育問題懇話会
〇その他

⑵ 学部ＦＤ委員会の役割としては、「教員が能力・資質向上のために行う活動を、学部教授会や教務委員会、各領域長と連携しながら整備・支援し、かつ、企画・運営・評価を行う」ことで学部内の合意がはかられており、以下のような活動に取り組む。
〇教員の研究会や研修会の開催、運営　〇全学、他学部のＦＤとの連携　〇専任教員、助手のＦＤ支援

⑶ 研究交流推進委員会は、看護学部内の研究活動と附属看護学研究所と連動した取組について審議し、その推進に当たる。

(4)附属看護学研究所は、研究所規則第３条に定められた次の事項について事業を行い、教育研究の質の向上、教員の資質・能力の向上に資するものとする。

〇看護学及び関連各領域に関する学術調査・研究、情報・資料の収集・整備・保管並びに活用
〇研究会、講演会の開催　　〇研究・調査報告、機関誌その他刊行物の発行
〇学外から委託された調査・研究の実施並びに研修・指導等への協力
〇学内外の教育研究機関との連携　　〇その他全各号に掲げる以外の必要な事業

② 実施状況　※実施されている取組を全て記載すること。

ａ　実施内容

現在、全学ＦＤ委員会を中心に次のような取組が進められている。看護学部もこれらの取組に参画するとともに学部の実情に即した学部独自のＦＤ活動も積極的に取り組んでいく。

(1)授業改善のための研修会

・授業の実践報告会　　・模擬授業等の実施

(2)授業公開

(3)学生による授業評価の実施

(4)教育問題懇話会

(5)「ＦＤメールマガジン」の発行

(6)「教育実践報告書」の刊行

(7)文部科学省・戦略的大学連携支援事業の活用

ｂ　実施方法

(1)授業改善のための研修会

年間２回実施している。「教育問題懇話会」の１プログラムとして実施。

(2)授業公開

平成21年度は6月22日（月）～26日（金）に1週間内部公開。11月28日（土）外部公開した。県内のすべての高等学校、県外の関係高等学校にも案内した。高校教員、高校生、保護者、社会人の参加があった。

(3)学生による授業評価の実施

ウェブ上で実施し学内公開。原則として全学部全学科のすべての科目で実施。

(4)教育問題懇話会

各種教育課題についての問題提起、研究協議。年間２回実施。

(5)「ＦＤメールマガジン」の発行

学内ポータルシステムで全教職員に配信。毎月１回発行。ＦＤに資する各種情報を提供。

(6)「教育実践報告書」の刊行

年間のＦＤ活動のまとめ及び各教員の授業実践報告を掲載している。

(7)文部科学省・戦略的大学連携支援事業の活用

愛媛大学を中心とする「『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク』による大学の教育力向上」プログラムに参画し、プログラムを推進することによりＦＤ活動の推進・充実を図っている。

(8)学部教員研修会

21年度は、5月から8月の毎週1回（90分）授業（実習指導）案の計画立案について研修会を開催。7月には助教6名・助手9名が作成した授業案により模擬授業を実施し、その後、研究協議を行った。
研修の成果を、後続の「フィールド体験実習」,「基礎看護学実習」に生かすことができた。

ｃ　開催状況（教員の参加状況含む）

ＦＤ委員会主催の研修会には、全教職員に参加を呼びかけている。公務の都合等で欠席もあり（欠席の場合は欠席理由が必要）、参加は全教職員の６～７割程度(学部研修会はほぼ全員）となっているが、毎回、有意義な研修の機会となっている。

ｄ　実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

毎月１回開催されるＦＤ委員会においては、各種取組の計画立案、実施結果の分析、改善案の検討等がなされており、必要な事柄は「ＦＤメールマガジン」や「教育実践報告書」で全教職員に伝え、教育内容、教育方法の改善に活用してもらっている。

（注）・「①ａ　委員会の設置状況」には，関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には，実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（３）自己点検・評価等に関する事項

①　設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

１．四国大学看護学部設置の趣旨・目的について

本学看護学部は、急激な社会の変化、特に、保健医療福祉を取り巻く著しい環境の変化 の中で、「人間性豊かな生活の実現」を中心的命題として推進してきた本学の教育研究の 発展として、また、地域に根ざし地域とともにある本学の使命として、地域における看護専門職者育成の必要性に応えるために設置されたものである。

従って当該学部においては、本学の建学の精神「全人的自立」に沿って人間形成を図るとともに、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を確実に身につけ、能動的学習者として生涯学び続け、地域の保健医療福祉に貢献できる実践力を備えた自立的人材、すなわち、「やさしくて賢い」看護専門職者を育成することを目的としている。

２．設置の趣旨・目的の達成状況について

本学看護学部の教育課程編成は、看護に必要な基礎的知識・技術の確実な修得とその系統的実践能力の育成並びに人間的成長や倫理観の育成等を重視しており、『共通教養科目』として、30単位以上の履修を規定するとともに、学年進行に伴って『専門基礎科目』、『専門科目』においてもそれらの資質形成を促す科目を配置している。平成22年度入学生に対しては、前年同様、入学式後、５日間のオリエンテーションを計画的に実施し、看護学部の教育理念や目的、教育課程編成、学習方法等についてガイダンスを実施するとともに、特に履修指導は、教務課員と看護学部教務委員、指導教員（チューター）による指導体制を組んで実施し、履修要項、シラバスを用意するとともに履修モデルを提示することにより、学生が自ら学習計画を立て、主体的、目的的に学習に取り組めるよう支援した。また、平成21年度（開設年度）入学生は、前述の指導のもと教育理念に即した科目履修を堅実に行い、臨地実習である「フィールド体験実習」、「基礎看護実習Ｉ」では、主体性、倫理的配慮などにおいて実習先から高評価を得ることができた。また、当該学部では、看護師・保健師の国家試験受験資格とともに、必要な科目を選択履修することにより、助産師の国家試験受験資格、養護教諭一種免許状、高校教諭一種免許状（看護）の取得が可能となっているが、平成21年度入学生のうち教育職員免許希望者に対しては、平成21年度後期に選考を行い該当者へ資格取得に係る十分な履修指導を行った。

教員組織においては、教員の資質向上を目指し、授業評価を活用したＦＤ活動、協定を結ぶ地元総合病院での臨地研究や年2回の学術講演会の開催、次世代教員育成のための助手・助教への研修会開催など教育・研究指導体制の維持向上に努めるとともに、県看護協会等との連携や出張授業、臨地実習先での事前事後研修等を通して地域との緊密な連携を図った。

本学のこうした努力に対する社会的期待は大きく、平成22年度入試においては、入学定員80名に対して志願者数329名と前年度の165名を大きく上回った。しかしながら、入学者数においては、前年度85名（入学定員超過率1.06倍）から平成22年度は98名（入学定員超過率1.22倍）となり、入学者数管理について今後に課題を残すこととなった。なお、平成22年度入試は、前年度に実施された推薦入試、一般入試、ＡＯ入試、社会人入試の４種に、あらたに大学入試センター試験利用入試を加えた５種を実施した。

施設設備については、既存校舎の耐震他改修工事をはじめ図書や各種設備の整備を設置計画に基づいて実施した。

３．総括評価・所見

本学看護学部の設置の趣旨・目的は、入試運営に若干の課題を残しつつも、設置計画に基づいて計画的に実施され、着実に達成されつつある。

入試運営については、より綿密な入学者数管理を実施することで、課題を克服していきたいと考えている。また、平成23年度には編入学生の募集を控えているが、入学希望者については、事前相談等きめ細やかな配慮を行い、入学予定者には入学前から履修指導を個別的に行うなど、入学後に本人の希望が達成されない事態が生じること等を未然に防ぐとともに、学生の編入学目的に即した主体的学習を支援する形で履修指導を行いたい。

なお、就職面については引き続き本学就職部をはじめとする各部署と緊密に連携し、学生指導を積極的に行い

② 自己点検・評価報告書

本学は平成１８年度に財団法人大学基準協会の認証評価を受け、大学基準に適合していると認定された。評価結果については、ＣＤ・ＲＯＭの形で関係機関や関係学校等に配布するとともに大学のホームページで公表した。大学として、次は、平成２５年度に評価機関の評価を受けることになる。
看護学部では、学部内委員会として評価委員会（４名）を置き、全学組織である自己点検評価企画運営委員会との連携を図りながら、中期目標、中期計画に即した年度内計画に対する学部内の評価の企画、実施、点検、改善等の活動の円滑な推進に努めている。

ａ 公表（予定）時期

・平成２６年５月１日 公表（予定）

ｂ 公表方法

・自己点検・評価報告書（冊子、ＣＤ・ＲＯＭ）を作成し、学内外に公表する。
・大学ホームページ上にも公開する。

③ 認証評価を受ける計画

・平成２５年度に評価機関（未定）の評価を受ける。

（注）・ 設置認可時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また，「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については，できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお，「② 自己点検・評価報告書」については，当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（４） 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

ａ ホームページに公表の有無 （ 有 ・ 無 ）

ｂ 公表時期（未公表の場合は予定時期） （ 平成２２年 ６ 月 １ 日 ）

ｃ 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
（ 承諾する ・ 承諾しない ）

ｄ 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(http://www2.shikoku-u.ac.jp/kango/)

（注）・「ｃ」において「承諾する」場合，文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので，大学等のトップページではなく直接リンクする先を「ｄ」に記入してください。
なお，「ｄ」のリンク先のアドレスが未定の場合は，決まり次第，文部科学省高等教育局大学設置室あてに，メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス ： d-secchi@mext.go.jp
件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先（○○大学）」としてください。

《別紙様式２》

建築等設置計画変更書

平成２１年度開設

四国大学　　看護学部　　看護学科		
建 物 区 分	認可時の計画	変 更 計 画
〔面積の減少〕 （１）旧第三学生寮 （２）中央棟	 ２４３㎡ １３，７８３㎡	 ０㎡ １３，５７５㎡
	(1)　既存校舎改修工事等に伴い、竣工後に移転予定であった保健管理課及び学生相談室を旧第三学生寮に一時的に移転させていたため、該当部分を「基準内校舎（共用）」として積算していた。 　このたび、工事の竣工に伴い当該課室が再度移転したので、該当部分を「基準外校舎」とし、当該面積（243㎡）を除外した。 　いずれも授業では使用しない全学共用施設のため、設置計画に支障はない。 (2)　次のことから中央棟に係る面積（208㎡）が減少したが、設置計画に支障はない。 ①登記による面積の減少。（78㎡）※H21年度報告済 ②１階の貸店舗面積を除外した。（130㎡） 　なお、(1)(2)により校舎面積は451㎡減少するが、設置基準面積は十分満たしている。	

（注）１　校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少，建築計画の遅延）がある場合には，上記様式により提出してください。

　ただし，面積の増加や建築計画と登記上の面積の誤差並びに建築計画が早まる場合には，この書類の提出は不要です。

２　面積が減少する場合及び校舎建て替えの場合には変更に係る図面及び新旧対照表を，建築計画の遅延の場合には工程表をそれぞれ添付してください。

３　校地の計画の変更が生じる場合には，「建築等設置計画変更書」を「校地面積変更書」に，「建物区分」欄を「団地の名称」に変更して提出してください。